



# Newsletter

2022年3月発行

## 日本在宅ケア学会

### No.15

一般社団法人日本在宅ケア学会  
事務局  
〒100-0003  
東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
パレスサイドビル  
TEL：03-6267-4550  
FAX：03-6267-4555

## 令和3年度 日本在宅ケア学会委員会活動紹介

### 日本在宅ケア学会第26回学術集会報告

中谷 久恵（広島大学大学院地域保健看護開発学）

#### ■ハイブリッド開催を実施して

2021年8月28(土)・29(日)日の2日間、広島国際会議場の現地とWeb会場から、第26回日本在宅ケア学会学術集会を開催いたしました。コロナ禍でも口演発表の申込みが多かったことや事前調査の8割に来広希望者がいらしたことで、外気交換が可能な会場が確保できたことで、現地の臨場感をお伝えできるハイブリッド開催といたしました。東京オリンピックとお盆後のCOVID-19感染急拡大により、前日には広島に

第5波緊急事態宣言が発令されましたが、広島県イベント基準に則った厳格な感染対策の下で滞りなく終えられましたことに、関係者を代表し心よりお礼申し上げます。

学術集会は討論の場であることから、ライブでは意見交換を深めるプログラムを優先し、シンポジウムとシネエデュケーション、口演発表を行いました。ビデオ画面には共同研究者と一緒に映ってくださった演者もあり、オンライン開催ならではの発表を感じました。遠隔地からライブで登壇いただいた方には、時間どおりにつながることへのご心配をお掛けしたと思います。運営側もハイブリッドの経験がなく不慣れでしたのでトラブルが数件発生してしま



受付・企業展示



開場前の第1会場とライブスタッフ

い、この反省と教訓を次の学術集会へ生かしていくことが、主催者の責任であると認識しております。

インターネットでのアンケートが現地終了後より届き、オンデマンド会期延長のご意見があったことで、予定を繰り上げて9月5日までとしました。情報発信の即時性が功をなしたのは、何よりオンライン開催のメリットによるものと思います。With コロナ時代から誕生した新学術集会が、今後も益々発展していきますことを祈念しております。

### 「在宅ケアイノベーション研究・研修委員会」の紹介

委員長：上野 まり（自治医科大学看護学部老年・在宅看護学）

本委員会は、2021年の夏に設立が決められました。それ以前に、本学会の亀井智子理事長のご専門であるテレナーシングのガイドラインテキストが、学会内ですでに作成されていました。コロナ禍においてテレナーシングへの期待がさらに高まった結果だと思いますが、厚労省看護課から、テキストを活用した研修会の実施について、本学会に打診がありました。また、テレナーシングと同時に、東京大学の真田弘美先生が以前から研究してこられた、エコーを活用した看護アセスメントについても、全国の看護師を対象に普及活動をしてほしいとの要望も併せて、2つの研修会を年度内に3回実施するという事業を引き受けることになりました。

臨時の理事会開催の結果、この事業が学会の事業となり、それに伴って委員会が新設されました。9月から12月にかけて猛スピードで準備をして、2021年内に3回の研修会を終えたところです。急に学会に入会されたり委員に就任された学会員の皆様方には大変なご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。おかげさまでアンケート結果を見ると、毎回好評を博しております。

す。この委員会が今後どのように発展していくのかについては、私自身も未知ですが、地球の温暖化やITの進化、様々な災害の発生など、近年の地球規模の変化とともに、在宅ケアに関する学会活動も柔軟に変化していかなければならないと痛感しています。

### 看護のエコー・テレナーシングWEBセミナーについて

片山 陽子（香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科）

#### Part1 看護のエコーセミナー

講師：真田 弘美（東京大学）  
講師：松本 勝（石川県立看護大学）  
講師：保坂 明美（訪問看護ステーションフレンズ）  
講師：三國 陽子（よどきり訪問看護ステーション）  
講師：小川真里子（よどきり訪問看護ステーション）

#### Part2 テレナーシングセミナー

講師：亀井 智子（聖路加国際大学大学院）  
講師：金盛 琢也（浜松医科大学）  
講師：中山 優季（東京都医学総合研究所）  
講師：河田 萌生（聖路加国際大学大学院）

医療におけるイノベーション、ICTを活用した看護実践が推進される中、本セミナーが開催されました。同一内容で3回開催し、毎回多くの参加者から質問も寄せられるなど、明日の実践への活用意欲が高まる盛況な研修となりました。

Part1 看護のエコーセミナーは、オンデマンド研修の視聴とライブ研修の構成でした。ライブ研修では、エコーを用いて看護技術を可視化する必要性、体内現象を可視化する重要性と利点について述べられ、訪問看護で使用しやすい携帯性に優れた機器も紹介されました。排尿・排便ケアでは、AIによる支援ツールの紹介もあり、看護師にとってエコーは聴診器のように身近になると感じました。在宅の小児・高齢者・ターミナル事例への実践から、エコーは侵襲が

無く、これまで可視化できなかった観察がリアルタイムで可能となり、適切なケアにつながっていると感じました。

Part2 テレナーシングセミナーは、まず概要説明があり、ICT と遠隔コミュニケーションを通じて提供する看護実践で、利用者の健康支援とヘルスアウトカムの改善・生活の質の向上に繋がると述べられました。必要な機器の紹介やリスク管理、実践方法、病状モニタリングは実際の状況のイメージが持て、慢性疾患の実践

例ではテレメンタリング演習も経験出来る内容でした。利用者との信頼関係と多職種連携を基盤に、言語・非言語的コミュニケーションを用いた実践によって自立支援に貢献できること、医療の地域偏在への対策としても大切であると実感しました。

エコー、テレナーシングともに、研究でエビデンスを蓄積しつつ、臨床での実装と教育を推進しており、看護師の専門性を高め、療養者のQOLを向上するものと感じました。



Part1 看護のエコーセミナー



Part2 テレナーシングセミナー

## 在宅ケア実践トピック

### 杉浦記念財団 地域医療振興賞を授賞して ～訪問看護を基盤とした共生社会への支援～

高砂 裕子（全国訪問看護事業協会副会長・  
南区医師会訪問看護ステーション管理者）

この度、在宅ケア学会亀井理事長よりご推薦を頂戴し、杉浦記念財団 地域医療振興賞を授賞致しました。在宅ケア学会の皆さまに、心より感謝申し上げます。この杉浦地域医療振興賞とは、「地域医療を振興し、国民の健康と福祉の向上に優れた成果をおさめ、住み慣れた地域で安心して、その人らしく住み続けることを支援する活動を行なった団体・個人を対象に表彰されます。地域医療に貢献をした人々の活動に光を当てることで、全国の活動の機運が広がること、また奨励、促進する環境を醸成することを目的としている」ものです。

訪問看護制度は、老人訪問看護（1991年）、医療保険の訪問看護（1994年）、介護保険の訪問看護（2000年）と対象を拡大し、医療制度改革による在宅医療の推進により、地域包括ケアシステムの医療サービスの中核を担う役割を期待しています。

私は、横浜市南区で南区医師会訪問看護ステーションの管理者として27年間活動をしています。訪問看護とは、地域でさまざまな疾患や障がいを持ちながら

生活する方への支援を行うことです。一方、人口や世帯状況などの変化により、社会保障制度全般にわたる構造的な改革により、生活を支える制度が利用者には、解りにくくなっています。さらに、利用者の価値観も多様化しています。利用者が、地域特性に応じた人材を含むさまざまな資源を活用して安心して生活を送るために、丁寧かつ根拠に基づく訪問看護実践（個別支援）から地域全体の共生社会へと普遍的な形で相談事業に発展し、包括的なケアを提供する、新たな訪問看護の役割モデルとなると考え、図の活動を実践してきました。

また、このような新たな訪問看護の役割モデルを全国的に発信していきたいと思えます。

現在、長期化する新型コロナウイルス感染症の拡大において、感染者の方からの相談や、障害者施設の管理者からゾーニングを含む施設での感染対策の相談、在宅ケアを支えるサービス提供者から感染者への訪問に関する相談など、世代や役割を超えた在宅ケアに関わる方への支

平成7(1995)年2月1日 南区医師会訪問看護ステーション開設、  
1998年 横浜市社会福祉協議会から作業所への健康相談を開始

平成12(2000)年4月 居宅介護支援センター事業の開始

平成27(2015)年1月 南区在宅医療連携拠点事業 南区在宅医療  
相談室の設置

平成27年12月 機能強化型2訪問看護ステーションの届出

令和元年(2019)横浜市立学校における医療的ケア支援事業 令  
和2年(2020)横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター事業  
の開始

援を、訪問看護活動を基盤として今後も継続・発展していきたいと思えます。

### 介護ロボット開発等加速化事業について

川上 理子 (高知県立大学看護学部)

わが国では介護分野の人材を確保する一方で、限られたマンパワーを有効に活用する解決策の一つとして、高齢者の自立支援を促進し、質の高い介護を実現するためのロボット・センサー等の活用が期待されている。これに対し、厚生労働省は平成30(2018)年度より介護ロボット開発等加速化事業(委託:一般社団法人日本作業療法士協会,事務局:NTTデータ経営研究所)を展開している。

平成30年度から3年間、各都道府県にニーズ・シーズ連携協調協議会を設置し、ニーズ調査及び介護ロボット開発を進めた。初年度は、介護ロボットを導入する介護施設等において、解決すべき課題(ニーズ)を調査した。2年目以降は、それを解決するための要素技術及び周辺技術(シーズ)とマッチングさせ、施設における介護業務の中でより効果的な介護ロボットの開発促進することを目指した。令和元年(2019)度には、ニーズ調査を元に「被介護者の自立支援」「被介護者の負担軽減」「介護者の負担軽減」を目的に、【移乗支援】【移動支援】【排泄支援】【見守り】【コミュニケーション】【入浴支援】【介護業務支援】を重点科目として全国50の協議会から52の新規ロボット案が提案された。令和2年(2020)度は、全国12協議会において製品化につながる開発提案の作成と試作機作成を行っている。

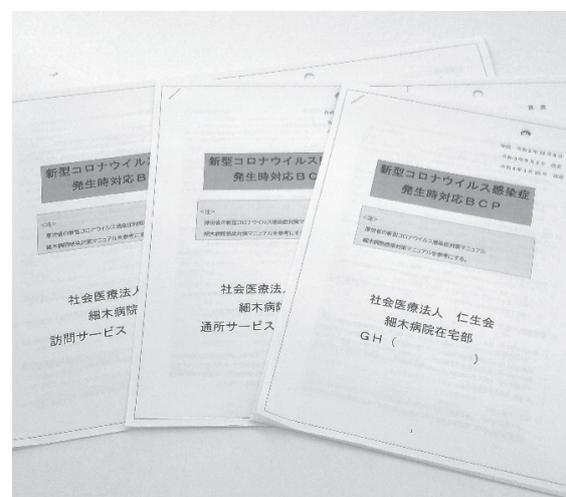
令和3年(2021)度からは企業による介護ロボットの開発促進を目的に、介護ロボットの開発・実証・普及プラットフォーム事業を展開している。この事業は、地域における開発から活用までの相談窓口(地域拠点)を設置するほか、

介護ロボットの製品化にあたって評価・効果検証を実施するリビングラボのネットワークを形成し、実証フィールドを整備することにより、エビデンスデータを蓄積しながら、介護ロボットの開発・普及を目指している。

### 新型コロナウイルス感染症発生時のBCP作成に取り組んで

井上加奈子 (社会医療法人 仁生会 細木病院 在宅部 在宅部教育課長 / 訪問看護ステーションほそぎ 在宅看護専門看護師)

当院在宅部には訪問看護ステーション、訪問介護、通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護、認知症対応型共同生活介護(以下、GHとする)など15の在宅サービス事業所がある。当院在宅部では以前より大規模災害を想定したBCPを作成しH26年4月より月1回BCP委員会を開催していた。新型コロナウイルス感染症発生後は対面式で開催していたBCP委員会をWEB開催とし、新型コロナウイルス感染症に関する内容も取り上げ全事業所で情報共有している。R2年12月に新型コロナウイルス感染症発生時BCPを訪問系・通所系・GH系の3種類作成した。BCPの中には、予測されるリスク・ボトルネックを洗い出し、クラスター発生を想定した内容を盛り込むなどBCMとして実



際の運用につなげていくための内容を盛り込んだ。BCP作成後に厚労省の新型コロナウイルス感染症感染者発生シミュレーション～机上訓練シナリオ～も行った。日ごとに更新される情報を全事業所で情報共有するため、毎朝10分程度のミニWEB会議を開催している。その中で職員や利用者の体調などを把握し、不測の事態にも即座に対応できるような体制を整えている。当院の感染症管理認定看護師と共に各事業

所に回りPPE着脱訓練の実施を行ったり、入所系の事業所にはゾーニングのシミュレーションを行ったりした。不測の事態が起きた時にもBCPを共通ツールとして用いて内容を確認しでき得る対策を講じている。政府の方針変更など新たな情報に合わせて、BCPの内容を見直し更新している。コロナ禍においてもBCPを実践し必要不可欠である在宅サービスが継続できるように今後も取り組んでいきたい。

令和3年度日本在宅ケア学会論文賞受賞に寄せて  
 ー 奨励論文賞受賞者よりー

◆令和3年度日本在宅ケア学会奨励論文賞



蘭 直美  
 金沢医科大学

■受賞論文 研究

在宅要介護高齢者の栄養状態の実態と関連要因

蘭 直美 (金沢医科大学)  
 川島 和代 (石川県立看護大学)

このたびは奨励論文賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究にご協力頂いた皆様へ心より感謝申し上げます。

本研究では、在宅要介護高齢者の栄養状態の実態とその関連要因を明らかにし、低栄養の課題を検討いたしました。本研究により、低栄養の課題は多岐にわたるため、摂食嚥下領域の評価・訓練および栄養面のサポートを行う専門職を交えた支援が必要であることが示唆されました。在宅要介護高齢者の生活の質を維持するうえで、栄養状態の維持・改善の視点は不可欠です。しかし、在宅では病院・施設のような管理された食事ではなく、利用しているサービスがあっても、限られた訪問時間では「食事」や「栄養」までに目が行き届かないこともあります。

今後は在宅における食支援の発展を目指し、研鑽を積んで参りたいと存じます。

## 各種ご案内

### ニュースメール配信用 メールアドレス登録のお願い

本学会では、会員のみなさまへ迅速に情報提供を行うために、「ニュースメール」（不定期／年数回）を配信しております。未登録の方は会員専用サイトよりご登録いただくか、会員登録事項変更届のご提出をお願い申し上げます。

### 実践および研究助成金について

#### ■第9回実践・研究助成金募集結果■

〈2022年度助成者〉

- ◇「中高年がんサバイバーのコーピング行動、心的外傷後成長、およびQOLに関する研究」

易 肖和（早稲田大学人間科学研究科）

※助成額：20万円

- ◇「訪問看護事業所におけるチームプロセス強化と就業継続との関連」

立川 尚子（聖路加国際大学大学院）

※助成額：16万円

- ◇「訪問入浴「看護」の可能性を探る：訪問入浴の看護職の教育ニーズに関する調査」

渡辺 忍（茨城県立医療大学）

※助成額：17万円

#### ■第10回実践および研究助成募集について■

募集期間：2022年10月1日～11月30日（予定）

応募資格：実践および研究代表者は、当学会員（入会手続きが完了している者）であり、該当年度の会費を振り込んだ者。

※詳細が決定次第、学会ホームページに掲載予定。

## 第27回日本在宅ケア学会学術集会のご案内

第27回日本在宅ケア学会学術集会を2022年7月30日(土)・31日(日)に、一橋大学一橋講堂にて開催いたします。この学術集会がコロナ禍を乗り越えた（あるいは乗り越えつつある）記念すべき集会になることを願って準備をしております。ぜひ皆様とお会いできることを楽しみにしております。

### 1. テーマ

ひとの生（life）を支える在宅ケア・在宅リハビリテーション

### 2. 学術集会長

下田 信明（東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科）

### 3. 会期

2022年7月30日(土)・31日(日)

（オンデマンド配信：7月27日(水)～8月31日(水)（予定））

### 4. 開催方法

・ハイブリッド開催：対面、オンデマンド配信、リアルタイム配信

### 5. 会場

一橋大学一橋講堂（〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター2階）

### 6. プログラム（題目は全て仮）

#### 1) 1日目：7月30日(土)

①特別講演：行政・総合診療経験からみたこれからの在宅ケア

講師：内藤美智子（久留米大学医療センター、医師）

- ②教育講演1：世界におけるCBR（地域に根ざしたリハビリテーション）の現状と課題  
講師：河野 眞（国際医療福祉大学，作業療法士）
- ③特別企画1：会社経営，社会貢献，脳卒中の経験から考えたこと，伝えたいこと  
講師：坂川 健
- ④特別企画2：「コロナ禍で考えたこと，感じたこと」（詳細検討中）

## 2) 2日目：7月31日(日)

- ①教育講演2：言語聴覚士による訪問の仕事：理論と実際  
講師：平澤 哲哉（在宅言語聴覚士事務所，言語聴覚士）
- ②教育講演3：在宅ケア・在宅リハビリテーションの理論と実践  
講師：長谷川 幹（三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック，医師）
- ③教育講演4：睡眠の科学：最近の話題  
講師：岡島 義（東京家政大学）
- ④教育講演5：在宅ケア・看護における近年の進歩：エコーの利用  
講師：玉井 奈緒（東京大学，看護師）
- ⑤シンポジウム1：地域システムで支える在宅ケア  
シンポジスト①山田 雅子（聖路加国際大学，看護師）；  
地域システムにおける看護職の役割と今後の課題  
②村山 佳代（帝京平成大学，社会福祉士）；  
法からみた日本における在宅ケアの課題  
③関本 充史（㈱かなえるリンク，作業療法士）；  
地域システムにおけるリハビリテーション専門職の役割と今後の課題
- ⑥シンポジウム2：在宅ケアの具体的工夫：私の場合  
シンポジスト①杉原 和子（㈱日本在宅ケア教育研究所，看護師）  
②箱田 純子（㈲なのはなメイト，介護支援専門員・介護福祉士）  
③山口幸三郎（訪問R-station，理学療法士）
- ⑦公開講座（詳細検討中）：高校生と考える在宅看護・在宅リハビリテーション

## 3) オンデマンド配信のみ

- ①教育講演6：うつ病者を地域で支える  
講師：高橋 章郎（首都医校，作業療法士）
- ②教育講演7：在宅に向けた回復期リハビリテーション病院併設歯科の取り組み  
－医科歯科連携と訪問歯科診療－  
講師：天草 大輔（リハビリテーション天草病院，歯科医師）
- ③学術集会長講演：私が在宅リハビリテーションに魅かれる理由；下田 信明
- ④生涯教育委員会企画：ニューロリハビリテーションの基礎知識；鈴木 誠（東京家政大学，作業療法士）
- ⑤論文賞記念講演，ガイドライン作成委員会企画，学会活動推進委員会企画，政策提言委員会企画
- ⑥一般演題

## 7. 実行委員会：お問い合わせ先

- 東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻内
- E-mail：office.jahc27@gmail.com
- 学術集会ホームページ：http://conference.wdc-jp.com/jahhc/27th/program.html